

平成10年度

原子力に関する技術的安全と 社会的安心等に関する調査報告書

平成11年3月

過去2カ年に渡る当調査研究委員会報告をもとに、原子力の技術的安全と社会的安心の乖離構造をモデル化し、その乖離誘起因子について数量的議論を行った。

当報告では、原子力の技術的「安全」感および「安心」感とともに、平均的な日本人が原子力に対して抱く二種類の異なる感覚であると定義し、過去の世論調査結果をもとにこれら二種の感覚の経年変化状況を求めた。「安全と安心の乖離」をこれら二種の感覚の差で表現する場合、「乖離」は1980年代前半に急速に進み、80年代後半から今日に至るまでほぼ一定状態の程度で推移したことがわかった。この状況を説明するために、平均的な日本人はニュースメディアの作る情報環境に浸された状態で生存し、さらに、原子力に係る知識は当該情報環境を介して吸収し、記憶するとするモデルを構築した。このモデルでは人々を取り巻く情報環境のうち、原子力情報は新聞、テレビ、週月刊誌などのメディアがリリースする原子力事故情報、リスク情報、不安情報、不信情報、原子力に係るポジティブ情報等の各成分から成るとし、人々によるこれらの記憶の重畳が「乖離」形成することになったとする。「乖離」程度を目的変数、原子力情報の各成分の記憶量を説明変数として重回帰分析を行った結果、乖離は主として新聞およびテレビからリリースされた（原子力に係る漠然とした）不安情報、およびリスク情報の（寿命 8.0年の）長期記憶によるものであることが判明した。

原子力に関するネガティブおよびポジティブな情報が、原子力に対する人々の態度をそれぞれネガティブ、およびポジティブな方向に振らせることを示唆する例などから、乖離の解消のためには十分な量の（ポジティブな）情報を人々に提供し続けることが重要であることがわかった。（ネガティブ、およびポジティブな内容のいかんを問わず）積極的な情報の提供は、提供者に対する人々の信頼度を高め、これは提供者自身の存在意義を高めることにつながる。すなわち、情報の質にかかわらず積極的に情報を提供することは、結果的にはポジティブな情報を提供することと同義となることに注意すれば、原子力に係る「安全」と「安心」の乖離の解消の主要眼点は（8.0年以上の）長いタイムスケールにわたる息の長い情報開示にあるといえよう。

目 次

要 約

I. 技術的安全と社会的安心のモデル化

1. 序	1
1. 1 調査研究目的	1
1. 2 調査研究期間	1
1. 3 調査研究方法	1
2. 平成8、9年度における調査研究結果の概要	3
2. 1 平成8、9年度調査研究員会意見のまとめ	3
2. 2 準備的モデルの概要	6
3. 乖離モデルの構築	10
3. 1 「安全」と「安心」の定義	10
3. 2 「安全」と「安心」に係る世論の経年変化	11
3. 2. 1 「安全」に係る世論	11
3. 2. 2 「安心」に係る世論	12
3. 3 モデル化の方法	19
3. 3. 1 前提	19
3. 3. 2 定量化の方法	21
3. 4 概念モデル	23
3. 4. 1 全国モデル	23
3. 4. 2 地域モデル	24
4. 乖離モデルの定量化	32
4. 1 情報環境データ	32
4. 2 数値的取り扱い	34
4. 2. 1 乖離算出モデル	34
4. 2. 2 乖離程度の経年変化	38
4. 2. 3 乖離誘起因子の記憶量	41
4. 2. 4 重回帰分析	43
4. 3 分析結果および検討	45
5. 情報公開の重要性の示唆例	78
6. 結 論	88
7. 参考文献	90

II. 調査研究委員会による調査結果

1. 安全一般	91
2. 技術的安全と社会的安心の乖離とその要因	97

今回の会議にて配布した資料は多量な資料の為、入手を希望される方は下記3機関において閲覧・複写（有料）に応じております。

●原子力公開資料センター（東京都文京区白山5-1-3-101）

TEL 03（5804）8484 東京富山会館ビル6F

土・日・祝日、10/1日は休館

●未来科学技術情報館（東京都新宿区西新宿）

TEL 03（3340）1821 新宿三井ビル1F

第2・第4火曜日は休館

●サイエンス・サテライト（大阪府大阪市北区扇町）

TEL 06（6316）8110 扇町キッズパーク3F

月曜日、祝祭日の翌日は休館